

## 編集後記

旭川医療センター雑誌の第2巻発刊にあたり、原著論文、症例報告、CPC、アメリカVA研修やNHOフェローシップについての帰朝報告、そして様々な当院独自の取り組みなど多岐にわたる論文を投稿して頂き、関係された方々に深謝申し上げます。また、多忙な中論文の査読にご協力頂いた方々に深謝申し上げます。前箭原修院長が退職された後を引き継がれた西村英夫院長のご指導のもと、医局、看護部、各パラメディカル、事務の皆さんのご協力により、当院第2巻となる医療雑誌を無事に発刊することが出来ました。

何事においても2回目のジンクスが言われています。昨年同様に旭川医療センター雑誌発刊の仕事にあたり不安を感じていましたが、その心配も杞憂に終わりました。日常医療の仕事と並行してプラスアルファの仕事に取り組むことは、かなり労力を要するであろうことは容易に想像が付きまします。その状況の中、昨年以上の数の論文を投稿して頂いた事実に、旭川医療センターの皆さんの底力を感じています。この雑誌には当院の新たな可能性を感じさせる取り組みも語られています。皆さんにとってacademicな好奇心をくすぐるきっかけにして頂けることを期待しています。

本年度診療報酬改定が行われ、当院も否応なくその荒波にのみ込まれています。どうしても多忙な診療に追われ、また病院としての経営にも無頓着ではいられない時代になりました。そのような状況でも、この旭川医療センター雑誌が当院の皆さん全員にとって、医療・医学・看護の原点を見失わない拠りどころになってくれることを願っています。

2016年7月

臨床研究部

遺伝子研究室長 鈴木 康博

### 旭川医療センター医学雑誌

編集委員長

鈴木 康博

編集委員

西村 英夫 藤兼 俊明 木村 隆 藤内 智 山崎 泰宏 平野 史倫  
青木 裕之 黒田 健司 横浜 吏郎 清野しのぶ 後藤 達也 岡田 令